



先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/06/01

## 6月は世界的にイベント多数

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	米利上げは6月か7月か 予想レンジ: 106.500~114.500円	2-3
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	OPEC総会を受けた原油相場に注目 予想レンジ: 80.500~88.400円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



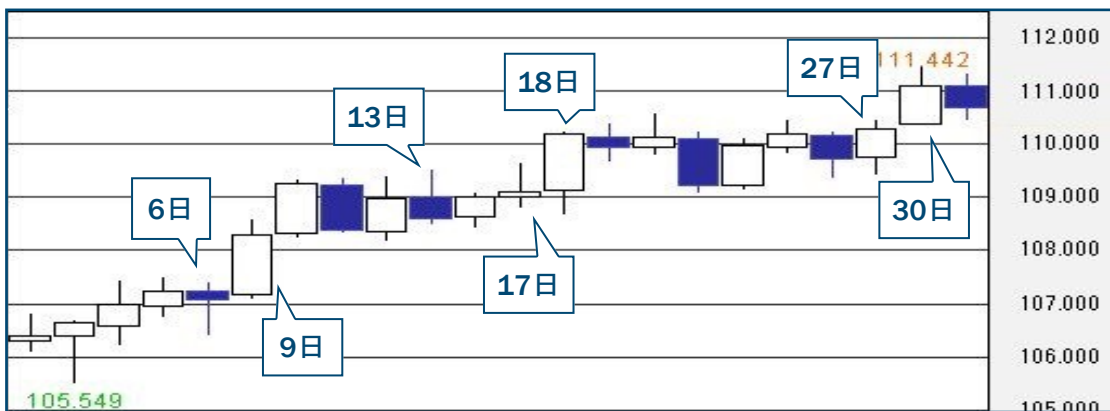
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# USD/JPY

## ドル/円 5月の推移

5月のドル/円相場は105.549～111.442円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.2%の上昇(ドル高・円安)となった。前月末の日銀ショック(追加緩和見送り)の余韻が残った上旬には、ゴールデン・ウィークの薄商いを狙った仕掛け的な円買いなどによって一時約1年半ぶりの安値となる105.549円まで下落する場面があった。しかし、その後は麻生財務相らの発言を受けて円売り介入への警戒感が広がった事などから反転。中旬以降も米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ観測の再燃や本邦消費増税の再延期観測などを背景に右肩上がりの上昇が続き、30日には111.442円まで上昇した。



四本値	
OPEN	106.314
HIGH	111.442
LOW	105.549
CLOSE	110.724

6日	米4月雇用統計は、非農業部門雇用者数・前月比16.0万人増(予想20.0万人増)、失業率5.0%(同4.9%)、労働参加率62.8%(同63.0%)、平均時給・前月比+0.3%(同+0.3%)、平均時給・前年比+2.5%(同+2.4%)という結果であった。これを受けて一時106.40円台までドル売りが強まったが、平均時給の堅調な伸びを再評価する形で米長期金利が低下から反転上昇するとドルも反発。ダドリー米NY連銀総裁が「米雇用統計は期待より弱かったが、自身の経済見通しに大きく影響しない」「年内2回の米利上げ見通しは依然として妥当」などと発言した事もドルの買戻しを誘い、107円台を回復した。
9日	前月末に、米財務省が日本を為替操作国の監視リストに入れた事などに絡んで、麻生財務相が「日本の為替政策は制約を受けない」「米国が日本の為替政策を不当に考えているということはない」「為替の急激な変動は望ましくない」「われわれは『介入』の用意はある」などと発言。「介入」を言明するなど強い円高牽制を行った事を受けて円売りが活発化した。
13日	米4月小売売上高は総合が前月比+1.3%、除自動車前月比+0.8%といずれも予想(+0.8%、+0.5%)を大きく上回った。その上、米5月ミシガン大消費者信頼感指数・速報も95.8と予想(89.5)を大幅に上回ると109.50円台までドルが買い進まれた。しかし、ドル高と原油安を嫌気する形で米国株が下落幅を拡大すると再び109円台を割り込んで反落した。
17日	米4月消費者物価指数は前月比+0.4%、前年比+1.1%、コア前年比は+2.1%と概ね予想通り(+0.3%、+1.1%、+2.1%)ながらも堅調な伸びを示した。また、米4月住宅着工件数は117.2万件(予想:112.5万件)、米4月鉱工業生産は前月比+0.7%(同:+0.3%)となり、米経済指標に強い結果が続いた。その後、ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁が「6月のFOMCはライブな会合になると予想」「緩やかな利上げとは今年2-3回、来年3-4回を意味する」などと発言するなどドル買い材料が続出したが、これらを受けて利上げ再開観測が浮上すると米国株が弱含んだためドル買い・円売りは続かなかった。
18日	本邦1-3月期GDP・1次速報が前期比年率+1.7%と予想(+0.3%)を大きく上回ると、日銀の追加緩和観測が後退する形で一時108.70円台まで円高に振れた。しかし、NY市場終盤に発表された米FOMC議事録で「大半のメンバーは経済が正当化されるならば、6月利上げの可能性が高いと判断」していた事が明らかになるとドル買いが活発化して110円台を回復した。
27日	米1-3月期GDP・改定値は、前期比年率+0.8%と予想(+0.9%)を小幅に下回ったが速報値(+0.5%)から上方修正された。その後、イエレン米FRB議長が「今後数カ月での利上げが適切となる可能性」に言及。これを受けて6月もしくは7月の利上げ観測が高まりドルが上昇した。
30日	前週末に「安倍首相が来年4月に予定されている消費増税を2年半先送りする意向を固めた」と報じられた事を受けて、日経平均株価が17000円台を回復して上昇。これを眺めて111.442円まで上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD/JPY

## 米2年債利回

OPEN	0.7757%
HIGH	0.9344%
LOW	0.6782%
CLOSE	0.8770%

## 米10年債利回

OPEN	1.8262%
HIGH	1.8878%
LOW	1.6984%
CLOSE	1.8458%

## 日経平均

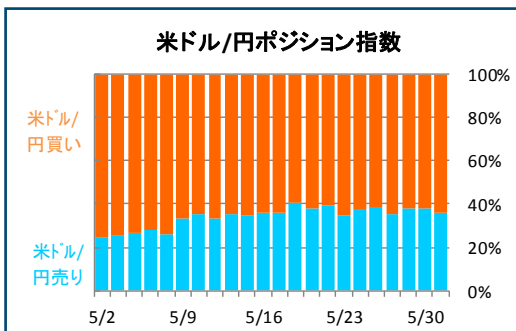
OPEN	16357.10
HIGH	17251.36
LOW	15975.47
CLOSE	17234.98

## NYダウ平均

OPEN	17783.78
HIGH	17934.61
LOW	17331.07
CLOSE	17787.20

## 5月のポジション動向

## 6月の日・米注目イベント



- ・5月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・米ページブック(1日)
- ・5月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・5月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・5月米雇用統計(3日)
- ・イエレンFRB議長、講演(6日)
- ・4月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・1-3月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・5月米小売売上高(14日)
- ・米FOMC(15日)
- ・5月米鉱工業生産(15日)
- ・日銀金融政策決定会合(16日)
- ・5月米消費者物価指数(16日)
- ・5月米住宅着工件数(17日)
- ・5月日本貿易収支(20日)
- ・5月米耐久財受注(24日)
- ・1-3月期米GDP・確報値(28日)
- ・6月米消費者信頼感指数(28日)
- ・5月米個人消費支出(29日)

## 6月の見通し

## 月間指標カレンダー(外部リンク)

6月のドル/円相場は米国の利上げが最大の焦点となりそうだ。14-15日の米FOMCに向けて雇用統計など5月分の主要経済指標の結果や、(雇用統計の結果を確認した上で)6日に行われるイエレンFRB議長の講演が注目される。もっとも、5月中旬以降に高まった市場の利上げ観測は、7月のFOMC(26-27日)での実施をメインシナリオに据えている模様であり、15日に利上げが発表される可能性(短期金利市場の織り込み度合い)は5月末時点で22.5%に過ぎない。これに対して7月は59.4%となっている。利上げするとしても、6月23日に英国で行われる欧州連合(EU)離脱を問う国民投票の結果(残留)を確認してからという見方が強いようだ。結果的に6月FOMCで利上げを見送る可能性が高まっている事になるが、その場合でもイエレンFRB議長がFOMC後の会見で7月利上げに向けた地ならしを行うと見られ、ドルが下落する公算は小さいと見る。むしろ、利上げ期待が持続する事でドル高も持続すると見る事が可能だろう(英国のEU残留が前提ではあるが)。

一方、日銀については16日に追加緩和を発表する公算は小さい。もっとも、4月の「ゼロ回答」を受けて市場の期待は著しく萎んでおり、もはや大きな期待は感じられない。日銀のノーアクションが失望の円買いを誘う可能性も大きく低下していると考えられる。(神田)

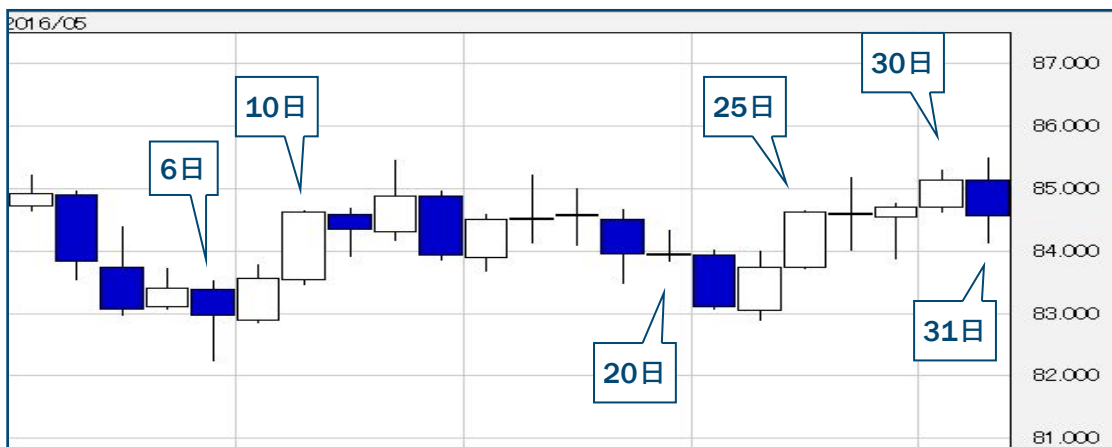
(予想レンジ106.500-114.500円)

## カナダ/円 5月の推移

# CAD/JPY

5月のカナダ/円相場は82.246～85.503円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.1%の下落(カナダドル安・円高)とほぼ横ばいであった。

前月の円買いの流れを引き継いで始まるも、下げの勢いが一服するとその後は原油相場の上昇を追い風に反発した。もっとも、市場の中心テーマが米利上げであり、円やカナダドルが米ドルに対して下落した事から、方向感が定まらなかった。月の高安はわずか3円程と、15年3月以来の小動きとなった事からも、こう着の度合いが見て取れる。



### 四本値

OPEN	84.737
HIGH	85.503
LOW	82.246
CLOSE	84.574

6日	加4月雇用統計は、失業率は7.1%と予想(7.2%)より良好な結果となるも、雇用者数は予想(0.10万人増)に反して0.21万人減となった。同時刻に発表された米4月雇用統計を受けてドル/円相場がドル売り・円買いが強まった事も重石となり、カナダ/円は82.246円まで下落した。
10日	日経平均が堅調に推移した上、麻生財務相が「為替が一方向的に偏った状況が続くと介入すると言っている」「(米監視リストについて)日本の為替政策が制約されるものではない」などの見解を示した事も円売りに拍車を掛けた。欧州株高も追い風となり、カナダ/円は堅調に推移した。
20日	加3月小売売上高は前月比-1.0%と予想(-0.6%)以上の落ち込みとなった。一方、加4月消費者物価指数はコア・前年比+2.2と予想(+2.0%)を上回る伸びとなった。強弱入り混じる結果となり、カナダ/円の反応は限定的。しかしその後、日経新聞が電子版で「日銀は将来の金融緩和の『出口』で保有国債に損失が生じる事態に備え、2015年度に初めて4500億円程度の引当金を積む」と報じた。これを受けて円買いが優勢となると、カナダ/円は一時値を下げる場面が見られた。
25日	加中銀(BOC)は市場予想通り、政策金利の据え置き(0.50%)を決定。声明で「森林火災の影響により、4-6月期の景気は想定より大幅に弱い」との見方を示すも、「景気は7-9月期に持ち直すと見込まれる」ともした。現在の政策スタンスについても適切とし、前回に続き中立を維持した。一部で森林火災の影響が懸念される中で楽観的な見通しが示されたため、カナダ/円は上昇した。
30日	前週末に前週末に安倍首相が消費税増税を2年半延期する意向を与党幹部に伝えたと報じられた事を受け、日経平均が上げ幅を拡大。時間外のNY原油先物が上昇した事も追い風となり、カナダ/円は85.30円前後まで上昇した。なお、加1-3月経常収支は167.7億カナダドルの赤字(予想:168.0億カナダドルの赤字)であった。
31日	加1-3月期国内総生産(GDP)が前期比年率+2.4%、加3月GDPは前月比-0.2%と、いずれも予想(+2.8%、-0.1%)より弱い結果となった。アラブ首長国連邦のマズルーイ・エネルギー相が「原油市場に満足している」「市場は上方修正しており、石油輸出国機構(OPEC)に楽観的」とコメントし、主要産油国による増産凍結が困難との見方が広がり、6月2日に予定されている石油輸出国機構(OPEC)総会への悲観的な見方を背景にNY原油先物が下落した事や、英EU離脱懸念からNYダウ平均が下落した事も重石となり、カナダ/円は84.143円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 加10年債利回り

OPEN	1.482%
HIGH	1.545%
LOW	1.265%
CLOSE	1.319%

## N Y 原油

OPEN	45.90
HIGH	50.21
LOW	43.03
CLOSE	49.10

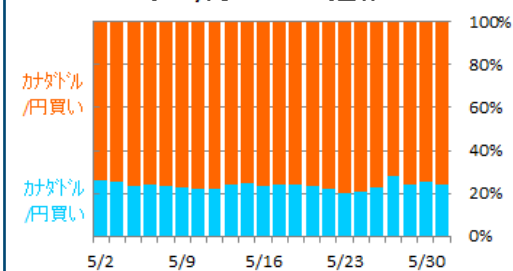
## NYダウ平均

OPEN	17783.78
HIGH	17934.61
LOW	17331.07
CLOSE	17787.20

## 5月のポジション動向

## 6月のカナダの注目イベント

カナダ/円ポジション指数



- ・OPEC総会(2日)
- ・4月加貿易収支(3日)
- ・5月加Ivey購買部景況指数(7日)
- ・5月住宅着工件数(8日)
- ・5月加雇用統計(10日)
- ・5月加消費者物価指数(17日)
- ・4月加小売売上高(22日)
- ・4月加GDP(30日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 5月の見通し

5月のカナダ/円相場は月を通して見ると小動きではあった。しかし、下げた後の反発局面では原油高が手掛かり材料となるなど、底堅さが見られた。6月は原油相場に注目したい。ロシアのエネルギー相が27日に「相場回復を受けて(原油増産凍結協議の)再開はない公算」と発言するなど、今月2日のOPEC総会での増産凍結観測が後退している事から、このまま原油価格が上昇するとは考えにくい。予想に反して凍結合意となればNY原油先物が上昇してカナダ/円相場を押し上げる事もあり得るが、その可能性は低そうだ。NY原油先物は先月26日に50ドル台に乗せたが昨年10月高値(50.92ドル)を前に伸び悩んでおり、今月に入っても上値が重いようならば一旦調整局面に入っても不思議ではない。2日の会合がそのきっかけとなる事も考えられる。前後の要人発言にも注意が必要だろう。

テクニカル面では、相場が煮詰まる中で前月の高安どちらを突破するかがポイントである。カナダドル相場や円相場で独自材料が出る事でブレイクするようならば、その方向にトレンドが発生する事も考えられる。

その他、米連邦公開市場委員会(FOMC、14-15日)や英EU離脱を問う国民投票(23日)を受けた株価の動向も見逃せない。  
(川畑)

(予想レンジ: 80.500~88.400円)